

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

新聞を未来の教師の力に



「大学のNIEを考える会」の第2回会合が2月24日、北海道新聞本社内のNIEプラザで開かれ、道内の大学関係者らが新聞活用についての効用や課題、提言、学生と新聞など多方面にわたり意見を交換したⅡ写真Ⅱ。

「大学のNIEを考える会」で論議

同会は北海道NIE推進協議会が「先生の卵たちにもNIEを」と道内大学の関係者に呼び掛け、2016年3月に発足した。この日は1年ぶり2回目の会合。

道教育大、北大、北星学園大、北海道文教大の、主に教職課程に携わったりメディア論を担当する教授・

16年度の大学とNIE セミナー参加や学生指導

2月24日に開かれた「大学のNIEを考える会」会合では、同会が発足した昨年3月から1年間、道内大学と北海道NIE推進協議会が関わった活動について、協議会から報告があった。主な活動は次の通り。

【NIEセミナー参加】▼

菊地達夫北翔大教授と齋藤眞宏旭川大准教授と旭川大

用される。

道内の実践指定校は5月中旬までに新聞協会指定の32校、道協議会による数校の独自指定校の内定が固まる見込み。

内定校の代表者は、5月13日午後1時30分から、北海道新聞本社で開かれる同協議会の本年度総会に出席し、情報交流を深める。

（4面に関連記事）

准教授・講師ら計7人のほか、協議会から高辻清敏会長ら6人が参加した。会合では参加者が持ち寄った指導案、NIEに関連するアンケートや日頃の経験を基に現状を報告し、意見を述べた。

将来教師を目指す学生に對しては「教科書があれば最低限の授業ができるが、新聞を使うと教師も考えなくてはならず深い内容になる」「学習指導要領改定案で、根拠に基づいて論理的

学生が、旭川セミナー（昨年10月21日）の実践報告で、社会科学系科目教員養成におけるNIE活動の取り組みを発表▼道教育大釧路校の内山隆准教授が北海道セミナー（昨年11月19日）のパネルディスカッションに参加

【大学生への授業や講座】

▼北大大学院生に対し、同協議会の高辻清敏会長と開発好博コーディネーターが発好博コーディネーターが昨年11月30日、NIEの概要と高校での実践例を紹介（90分）▼道教育大旭川校のNIE講座（昨年12月2日）で学生を対象に、元NIEアドバイザーの菊池安

吉・旭川市立神居東中学校長とNIEアドバイザーの福沢秀・富良野市立富良野西中教頭が新聞スクラップ体験を指導

に自分の意見を述べるのが重要とされている「教師が授業で自分の考えを出す場合、新聞の存在が力になることを若い教師に伝える必要がある」など新聞活用の有用性を述べる意見が相次いだ。

新聞への投稿についても「社会に出ると書式や形式を守って文章を書く必要があり、ルールを守って文章を作成する学習に適している」との意見があった。

一方で大学生と新聞については「今の学生は本気で読んでいない」「アンケートでは、思っていたより新聞に親しんでいなかった」「新聞の一覧性が重視されなくなった。学生は好みのニュースを選ぶだけ」など一段と読まれなくなっている現状が浮き彫りになった。

その結果「そうした学生が教師になった場合、記事を単なる教材として使うだけで、新聞を読まないし面白さも知らないだろう」と危惧する声もあった。

壁新聞など子供たちの新聞づくりに対して「新聞作りは新聞を読むことにつながらないのでは」との意見があったが、「子供たちが作った新聞を折り込みにして校区に配布できないか」との提言もあった。

同協議会の高辻清敏会長は「今の教師は社会性が求められている。視野が狭いと就職した後、いろいろな問題に対応できない。新聞は社会の動きを網羅している」と話し、大学でのNIEに期待を寄せている。

選挙報道の舞台裏を知る

道NIE研が冬季研修会

教師らでつくる北海道NIE研究会(会長・上村尚生 札幌市立星置東小学校長)の冬季研修会が1月6日、北海道新聞本社で開かれ、講演や実践発表を通して新聞の活用法や特性を学んだ。写真。

道内から教員ら25人が参加した。最初に毎日新聞北海道支社の筑井直樹報道部長が「新聞社と選挙報道」と題し講演した。

筑井部長は「なぜ投票が

また通称「バードウォッチング」と呼ばれる開票所での双眼鏡を使った得票数の目視調査や、開票当日に「A候補が当選」「B候補が当選」以外に、締め切りまでに当落が判明しない場合の「第3の記事」を用意しておくなど選挙報道の舞台裏を披露した。

報道関係者以外にあまり知られていない話に参加者は熱心に聞き、質問をしていた。

実践発表では、東海大付属札幌高の工藤優樹教諭が昨年7月の参院選直前、全校生徒を対象に実施した模擬投票について報告した。模



擬投票は主権者教育として社会科の中で、各政党や候補者の主張が載った新聞3紙の記事を読ませて実施したもの。

同じく岩見沢市立栗沢小の古閑亮子司書教諭は、学校図書館の活用について発表した。図書館資料情報の鮮度を補うのが新聞」と位置づけ、調べ学習から探究型学習へと進める同校の授業実践例を報告した。

このほか昨年10月26日に札幌市立盤渓小で開かれた第21回北海道日本NIE学会の第13回大会が昨年11月26、27日、松山市の愛媛大で開かれ、シンポジウムや研究分科会を通じ新聞活用の意義や方法を学んだ。

大会のテーマは「NIEが主権者教育に果たす役割」。全国から教育関係者や新聞関係者ら約250人が参加した。

子供向け新聞、英字紙、NIE教材...

セミナー会場に無料配布コーナー

北海道NIE推進協議会は2016年度から各NIEセミナー会場で、協議会加盟各社が発行している子供向け新聞やNIE関連パンフレットなどを展示し、無料で自由に持ち帰れるようにしている。

展示・配布しているのは、小中高生向け新聞や英字紙、ジャパタイムズ、ジャパタイムズSTなど。さ

らに配布地域以外では見ることのない各地域紙も展示・配布し珍しがられている。展示される新聞は計15紙程度にも及ぶ。

このほか道内実践指定校の新聞活用例をまとめた2015年度実践報告書(北海道NIE推進協議会編集)と「ほっかいどうNIE通信」バックナンバーをはじめ、加盟各社や日本新

聞協会のNIE関連パンフレットや冊子、コラムを書き写すノートや子供向け新聞スクラップ用ノートなども展示・配布している。

これらは加盟各社や日本新聞協会から提供を受けたもの。1人1部などの限定はなく、同僚の先生分など複数持ち帰ることもできる。会場によっては早いうちに



なりつつある。協議会は本年度も各セミナー会場に同様の展示・配布コーナーを設ける。



石狩セミナー会場の展示・配布コーナー。昨年8月2日、石狩市総合福祉センター

北海道セミナー会場で資料を見る参加者。昨年11月19日、北海道新聞社本社

石狩セミナー会場の展示・配布コーナー。昨年8月2日、石狩市総合福祉センター

研究分科会では、4テーマに分かれて行われ、相模原市の障害者施設殺傷事件の報道や主権者教育、「主体的・対話的で深い学び」などについて話し合った。

道内関係では、自由研究で元北嶺中高教諭の山西敏博・公立鳥取環境大教授が熊本地震やエクアドル地震について、日本の各新聞や英字紙を活用して読解力と自己発信力を付けさせる授業の実践などについて発表

マイ「スクラップ新聞」できた！

帯広セミナー、親子で実習

第15回十勝地区・帯広セミナーが2月11日、帯広市の北海道新聞帯広支社で開かれた。好きな記事の切り抜きを集めた一つの作品に仕上げる「スクラップ新聞」作りの実習を行った。写真

講師は北海道新聞の開発好博NIEコーディネーターが務め、親子連れ4組や教育関係者ら約40人が参加した。

参加者は用意された10余りの新聞から自分なりのテーマを決めて10くらゐの記事を選び切り抜いた。続いてレイアウトを考えながらB3判の紙に貼り付けて、見出しやコメントを書き入れ仕上げた。



が、3年生のA5判の紙を使った新聞作りについて報告した。A5判の小さな新聞であれば「文字数も少なく、子供たちが飽きずに取り組めるのでは」との狙いや成果、課題などを話した。

続いて鹿追町立鹿追中の近藤弘樹教諭が、北海道十勝新聞教育研究会の学習会について報告した。年4回の交流で新聞を授業に使うアイデアなどを交換していることなどを報告した。



日本国憲法の制定学ぶ 芦別高 日本史の公開授業

第13回空知地区・芦別セミナーが昨年12月13日、芦別市の道立芦別高で開かれ、「日本国憲法の制定」がテーマの日本史の授業が公開された。

小中高の教員ら約40人が参加した。

公開授業は、岡田則之教諭による2年生の授業。まず教科書をリレー方式で生徒に朗読させた後、3、4人ずつの班に分け、「憲法」をキーワードに5紙から自由に記事を切り抜き、感想を書くよう指示した。生徒は「今後、憲法について理解を深める必要がある」「護憲派と改憲派の集いの記事があり、いろいろな考え方がありと分かった」などの感想

を発表した。写真

また授業の中で、終戦直後の1946年の日本国憲法公布を報道した記事の切り抜きを生徒に配布した。右から左に読む横見出しなど今と印象の異なる紙面から時代の違いも感じ取らせた。

実践報告では、栗山山の富樫いずみ教諭が、栗山町立図書館から週1回司書を派遣してもらい、本に関わる学習の支援を受けている連携事業について発表した。

同じく滝川市立明苑中の山田圭子教諭は、学校全体で取り組む壁新聞作りについて、取材の様子や新聞作成の工夫、成果などを報告した。

2016年度に実施したNIEセミナー

名称	開催日	会場	内容
釧路町	6/2	釧路東高	公開授業、パネルディスカッション
網走	6/22	網走市立白鳥台小	公開授業、実践発表
中標津	7/5	中標津町立俵橋小	公開授業、実践発表
稚内	7/28	稚内総合文化センター	新聞活用講座・実習
石狩	8/2	石狩市総合保健福祉センター	新聞活用講座・実習
小樽	8/20	小樽市立朝里中	新聞活用講座、トークセッション
富良野	9/29	富良野市立扇山小	公開授業、実践発表
安平	10/18	追分高	壁新聞発表会、実践発表
旭川	10/21	教育大附属旭川中	公開授業、実践発表
函館	11/10	函館中部高	公開授業、トークセッション
北海道	11/19	北海道新聞本社	基調講演、パネルディスカッション
伊達	11/24	伊達市立伊達小	公開授業、実践発表
芦別	12/13	芦別高	公開授業、実践発表
帯広	2/11	北海道新聞帯広支社	スクラップ新聞講習会、実践発表

16年度セミナー終了

8カ所で公開授業

北海道NIE推進協議会の2016年度NIEセミナーが、2月11日の帯広で全日程を終了した。

16年度は札幌での北海道セミナーを含め14カ所で行われ、公開授業は8カ所で行われ、校種では小学校4校、中学校1校、高校3校。

教科では社会（高校は地歴公民）3、道徳3、国語1、総合1だった。

公開授業以外では、安平で追分高が全校生徒で取り組んだ壁新聞作りの発表会が全校生徒参加で行われた。それ以外は新聞活用講座などがメインだった。

東京都北区の第2回「比べて読もう新聞コンクール」の表彰式で、記念撮影する受賞者ら



東京都北区のコンクール

長、教育委員会賞などのほか、各新聞社が自社のタイトルがついた賞を出しており、新聞社も審査員を派遣、表彰式については地方版で写真つきで取り上げている。「応募総数が多い読書感想文コンクールよりも新聞に取り上げられ、このことが励みとなり応募数が増えている要因の一つ」という。

実施効果については、「学力調査では国語力が他の教科に比べて良く、特に読解力が良い。最近、知識や経験をもとに課題を積極

産経新聞札幌支局長 杉浦 美香

比べて読んで読解力向上

北海道の話でなくて恐縮なのだが、直前の職場である東京・地方部で関わったNIEの取り組みを紹介させていただきたい。

東京都北区で行われている、新聞記事を読み比べて分かったことや考えたことを小中学生が発表する「比べて読もう新聞コンクール」だ。

北区は平成22年度から新聞に親しみ、子供たちの思考力、判断力、表現力を育てようという目的で、このコンクールを実施。コンクールは、その一環で始まり、昨年で4回を数え、応募総数は6609点と過去最多となった。

東京本社地方部時代、第2回コンクールで審査員となり、表彰式の記事も作成した。その時の応募総数が4027点。2年で約2600点も増加している。

委に聞いてみた。同区では、小、中学校計48校のうち半数ぐらゐの学校で週に1回程度、15分程度の時間をとり、自分の好きな新聞記事を取り組むを実施。区は各校月千円の予算をつけており、新聞社側も地元の販売店をつくる販売同業組合が協力。希望校に毎日、各新聞を複数部届けるなどの環境整備を行っているという。ユニークなのは区長、議



的に考え、知識や技能を活用するPISA型能力が求められており、役だっていると考えられる」と難波浩明・教育指導課長は指摘する。

道NIE推進協 5月13日に総会 道NIE研も

道内の新聞社・通信社などをつくる北海道NIE推進協議会(高辻清敏会長)は本年度総会を5月13日午後1時30分から、札幌市中央区の北海道新聞社本社で開く。

総会には、本年度NIE実践指定校内定校の教師と協議会加盟社代表などが出席する。

議題は、実践指定校内定状況報告のほかNIEセミナー計画など本年度活動計画案と予算案、役員選任、新任アドバイザー紹介。ほかに2016年度活動報告と決算・監査報告、実践報告表彰など。

また道内の教師らでつくる北海道NIE研究会(会長・上村尚生札幌市立星置東小校長)の本年度総会は同日午後1時から、北海道新聞社本社で開かれる。本

を教育関係者に理解してもらう、各新聞社の枠をはずし販売店レベルの協力といったことが必要だ。

読解力、伝える力は、生きていく術だ。新聞はあくまで一つのツールにすぎないが、活用してもらうための環境が整い、実践につながっているのが北区の取り組みだろう。

編集後記

1年ぶりに開かれた「大学のNIEを考える会」では、新聞活用の有用性や意義が語られましたが、事前に先生方から寄せられた資料にはこんな論点もありました。

「どうして学校教育に新聞を活用する必要があるのか」「10年後、20年後の社会の中で新聞をどう考えるか」「年代によって新聞に求めるもの、期待するものが違うのでは」「News in Educationではなく、News in Educationとしないと価値を維持できなくなる」一。根本的な問いや本質を探る姿勢はさすが大

学と感じました。

参加者の発言で完全に一致したのとは「今の学生は新聞を読まない」という一点。そうであれば「10年後、20年後の社会の中で」NIEのありようは変わっているかもしれません。今後の大学との交流の中で、未来のNIEや新聞の在り方が見えてくればと思います。(小)

年度活動計画、16年度活動報告などが議題となる。